



学校より  
第13号

岐阜市柳井高野  
1丁目1番地

# 新しい年の始まり

あけまして

おめでとうございます

新しい年が明けました。年末は寒い日が続き新年はごんごん年になるかと心配しましたが、皆様健康やかに新年を迎えられたことと思います。附属小学校にて

では、新校舎で迎えた初めての正月です。また今年も節目の創立三十五年から、新たな一歩を踏み出す大切な年でもあります。さて、あつという間に、年末年始の間

一年のうちで一番寒い時期を迎えます。インフルエンザや集団風邪が流行するこの時期です。寒いからと言って、身を縮ませていたのでは、体は鍛えられません。弱い体にはウイルスも喜んで飛び込んで来ます。寒さに負けない生活を口頭から心がけたいものです。多くの子が、保護者の方による自家用車での送迎です。また、スクーターバスを利用しての登下校ですので、

## 自分で温度調節出来る子に

一年のうちに一番寒い時期を迎えます。インフルエンザや集団風邪が流行するこの時期です。寒いからと言って、身を縮ませていたのでは、体は鍛えられません。弱い体にはウイルスも喜んで飛び込んで来ます。寒さに負けない生活を口頭から心がけたいものです。多くの子が、保護者の方による自家用車での送迎です。また、スクーターバスを利用しての登下校ですので、

## 今年の干支は戊子です

今年が子年です。詳しく言うと戊子(つちのえ・ね)です。平成二十年の干支「ねずみ」は新しい生命が種子の中に宿り始める状態を表していると言われてます。「戊(つちのえ)は、茂るといふ意味で、植物が勢いよく茂るといふ意味があり、絶対調を意味するそうです。

今年が子年です。詳しく言うと戊子(つちのえ・ね)です。平成二十年の干支「ねずみ」は新しい生命が種子の中に宿り始める状態を表していると言われてます。「戊(つちのえ)は、茂るといふ意味で、植物が勢いよく茂るといふ意味があり、絶対調を意味するそうです。

かなが正月気分が抜けないのも確かです。学校と家庭で連携して一日も早く子どもたちを平常心に戻してあげたいものです。新年を迎えた学校・教室は、希望と清新の気に満ちています。「今年こそ……」といふ子どもたちの願いや気持ちを育てたいものです。そのためには、親も教師も「期待と励まし」の言葉をかけてやること大切ではないでしょうか。平成十九年度の残りの三ヶ月を子どもたちのために精一杯努力します。どうぞ宜しくお願いします。

も新しいことに挑戦するのに適した年といえてつです。ただ、一方ではこんな事も言われます。戊が示すように、樹木が繁茂した状態を表しています。これを放棄すると風通しや日当たりが悪くなると枯れや根上りが起き、樹木の成長が止まり悪くすると枯れてしまつたのです。人間の集団も繁栄が続くと枝葉末節が繁雑になり衰退に向かつて言われます。戊子の年は繁茂し過ぎた樹木を思いきって剪定し、新風を吹き込むことが大事なのです。それによつて新しい生命力が創造される環境を整備するのです。

新しい事を始める時、思い切つてスリム化したり、方向転換をすることが大切だといふ言葉からの教えます。さあ、どんな一年になるのでしょうか。

既にホームページに告知しましたが、昨春秋に本校で映画の撮影が行われました。富樫森監督の新作映画「あの空をおぼえてる」の一場面が本校で撮影されました。十月八日朝六時から十二時近くまで、十四日六時より十七時までの二回にわたつて約六十名のスタッフと小池栄子さん、小日向文生さんらキャスト、多くのエキストラにより撮影が進みました。この映画は突然の不幸に見舞われた家族が心の痛みから立ち直り、きずなを取り戻すまでの物語です。(原作はアメリカのシヤネット・リー・ケアリー著「あの空をおぼえてる」です)「ヨイ、アイツ」。富樫監督の気合のこもつた掛け声が響く。カメラ横に陣取つて演技をじつと見つめ、もう一度「アイツ」と声を掛けてカット。反すつするようにはし目をつぶる。「すみません、もう一度。」という監督の声。小学生エキストラにも厳しい声がかかりました。映画の公開は、四月二十六日です。

## あの空をおぼえてる

物語です。(原作はアメリカのシヤネット・リー・ケアリー著「あの空をおぼえてる」です)「ヨイ、アイツ」。富樫監督の気合のこもつた掛け声が響く。カメラ横に陣取つて演技をじつと見つめ、もう一度「アイツ」と声を掛けてカット。反すつするようにはし目をつぶる。「すみません、もう一度。」という監督の声。小学生エキストラにも厳しい声がかかりました。映画の公開は、四月二十六日です。

## 寒い時期です

### 体調管理にご配慮を!

昨年末はインフルエンザの流行が早いという情報の流れ、学校でも秋から手洗い・うがいを励行してきました。寒い時期、空気が乾燥する時期を迎え、いよいよ集団風邪やインフルエンザが心配される時期となりました。一人を超え、児童が互気生活してきますから、毎日のように「けが人」が出ます。擦り傷などは校内で対応できますが、打撲など外見だけで判断しにくい場合は、病院の診察を受けることもあります。

「ついつい、対心の一方で、朝から保健室のベッドで寝ている子がいることがあります。」一学期の終わりは毎日の光景でした。気持ちの悪い子、熱のあの子、お腹の痛い子など、保健室は大賑わいのです。今朝、家を出る時は、どつたつたのっ!

「うん、お腹痛かつたよ。」  
「お家の人には話した?」  
「うん、話したよ。」  
「じゃあ、お母さんにお薬飲ませてもらつたんでしょ?」  
「学校で痛いのが治らなかつたら保健室行きなさいって。」  
時折、このような会話が聞かれます。中にはベッドでぐっすり寝て元気になる子もいます。しかし、薬療法で学校では授業は禁じられていますので、学校では様子をみるか、迎えに来ていたくことしか、対心が出来ないのが現実です。休まずに登校する意志の強さ。その一方で具合の悪いときは思い切つて休む意志も大切にしたいところです。お子さんの様子を伝えようとして連絡をしてもらつても、電話が通じないこともあります。寒い時期です。時には風邪をひくこともあると思います。そんな時は早めに対処していただき、お子さんが少しでも早く元気になるよう処置をお願いします。